

## II 調査結果の概要



## II 調査結果の概要

### 1. 子ども調査（小学5年生・中学2年生・17歳）の調査結果の概要

#### ■ ふだんの生活状況

- ・ 部活や塾・習い事の有無については、いずれも「している」が7割以上を占め、中学2年生が90.7%で最も高くなっている。その内容は、小学5年生は「習い事」が88.3%で最も高く、中学2年生と17歳は「学校の部活」が8割前後を占め、次いで「学習塾」となっている。
- ・ いずれも保護者との会話時間は「2時間以上」が最も高くなっており、「まったくしない」「15分未満」は中学2年生が最も高くなっている。また、保護者との夕食を、小学5年生は「いつも一緒に食べる」(64.9%)が、中学2年生と17歳は「ほとんど一緒に食べる」(中2：43.7%、17歳：45.1%)がそれぞれ最も高くなっている。「いつも一緒に食べる」と「ほとんど一緒に食べる」をあわせた『一緒に食べる』割合は年齢が上がるにつれて低くなっており、一緒に食べない理由として、小学5年生と中学2年生は「親（保護者）の帰りが遅いから」(小5：41.9%、中2：36.4%)、17歳は「自分の帰りが遅いから」(67.2%)となっている。
- ・ 自分に対する意識については、小学5年生と17歳は“自分のことが好き”に対し、「そう思う」と「やや思う」をあわせた肯定的意見が共に過半数を占める。中学2年生は「あまり思わない」と「思わない」をあわせた否定的意見が64.5%となっている。いずれも“自分はひとりぼっちであると感じる”に対し否定的意見が過半数を占め、年齢が上がるにつれて肯定的意見が高くなっている。また、“自分たちの意見を聞いてくれる大人がほしい”は、肯定的意見が小学5年生で52.5%に対し、中学2年生、17歳は否定的意見が過半数を占める。“あれこれ大人から指図されるより自分らしく生きたい”は、肯定的意見がいずれも8割前後を占める。“今、受験に向けて勉強すれば将来が楽になる”と“学習塾での勉強は進学のために必要である”は、いずれも肯定的意見が過半数を占め、特に中学2年生では8割前後と高くなっている。“塾や習い事よりも思いっきり遊ぶ自由な時間が欲しい”も、いずれも肯定的意見が過半数を占め、中学2年生が83.7%で最も高くなっている。
- ・ 地域に対する意識については、“自分の住んでいるまちが好き”に対し、肯定的意見が、いずれも7割以上を占め、小学5年生が89.1%で最も高くなっている。“将来もこのまちに住みたい”も肯定的意見が小学5年生で63.8%と最も高く、年齢が上がるにつれて低くなっている。“地域の将来を考える機会があっても参加したい”は否定的意見が、いずれも5～6割を占めている。また、“自分たちは、地域によって犯罪から守られている”と“自分の地域は災害に対して安全である”は、いずれも肯定的意見が過半数を占めている。“通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない”は、肯定的意見が小学5年生では51.3%で、年齢が上がるにつれて低くなっており、中学2年生と17歳は否定的意見が過半数を占めている。
- ・ 平日の放課後・自由な時間に過ごす場所は、いずれも「自分の家」が8割以上で最も高く、次いで小学5年生は「友だちの家」(36.5%)、中学2年生と17歳は「学校(ク

ラブ活動・部活動)」(中2:68.1%、17歳:47.2%)となっている。休日の日中過ごす場所では、いずれも「自分の家」が7割以上で最も高く、次いで小学5年生は「祖父母の家」(25.6%)、中学2年生と17歳は「学校(クラブ活動・部活動)」(中2:50.0%、17歳:26.8%)となっている。ホッとする場所では、いずれも「自分の家」が9割前後で最も高く、次いで「祖父母の家」となっており、小学5年生、中学2年生は「友だちの家」、17歳は「学校(クラブ活動・部活動)」がさらに続いている。また、「自分の家」「友だちの家」「祖父母の家」「親せきの家」はいずれも小学5年生が最も高く、年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。

### ■ 地域での生活状況

- ・ 近所の大人が自分の名前を知っている割合は、いずれも過半数を占め、そのうち小学5年生は「いろいろ話をする人がいる」(42.9%)、中学2年生と17歳は「あいさつをする程度の人がいる」(中2:35.8%、17歳:37.0%)が最も高くなっている。『近所で話をしたりする大人がいない』割合は、年齢が上がるにつれて高くなっている。
- ・ 近所の大人たちからほめられたりしかられたり等をした経験は、小学5年生と中学2年生では「ときどきあった」(小5:39.4%、中2:34.9%)が最も高く、17歳は「あまりなかった」(36.6%)が最も高くなっている。
- ・ 祭りやイベント等への参加状況をみると、いずれも「行事の当日だけ参加する(したことがある)」が7割前後で最も高くなっている。年齢が上がるにつれて「参加したことがない」割合が高くなり、17歳では29.8%と最も高くなっている。

### ■ 相談について

- ・ 保護者への相談状況について、いずれも「自分から話しかけ、いろいろ相談に乗ってくれる」が最も高く、男より女のほうの割合が高くなっている。一方、「親(保護者)の方からいろいろ聞かれて、答える」の割合は、いずれも女より男のほうが高く、中学2年生では「親(保護者)の方からいろいろ聞かれて、答える」(26.0%)や「親(保護者)の方からいろいろ聞かれるが、あまり答えない」(12.9%)、「自分からも親(保護者)からもあまり話しかけることはない」(10.6%)が高くなっている。
- ・ 「他の人から嫌なことをされたことがある」は、小学5年生が58.4%で最も高く、次いで中学2年生が50.5%、17歳は46.8%で、その時の相談相手は、小学5年生は「親」(48.8%)が最も高くなっている。中学2年生・17歳の場合は「友だち」(中2:65.2%、17歳:65.9%)が最も高くなっている。

### ■ 自己決定について

- ・ “門限など家庭内のルール”は、いずれも「親(保護者)に相談して決めている」が最も高くなっている。“学校に行くか、休むか”は、小学5年生と中学2年生では「親(保護者)に相談して決めている」が約半数を占め、17歳は「自分で決めている」(49.6%)が最も高くなっている。“塾や習い事に行くかどうか”は、小学5年生は「親(保護者)に相談して決めている」(41.2%)が、中学2年生と17歳は「自分で決めて

いる」(中2:38.5%、17歳:46.6%)がそれぞれ最も高くなっている。また、“風呂・食事・勉強などの生活時間”、“服装・髪型・ファッション”、“友だち”、“恋愛”、“仕事・アルバイト”、“将来”は、いずれも「自分で決めている」が最も高く、“将来”を除いた項目では、年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。“将来”は、年齢が上がるにつれて「自分で決めている」割合が低くなり、17歳では「親(保護者)に相談して決めている」の割合が33.0%と高くなっている。

- ・ 将来の夢や目標の有無は、いずれも「ある」が最も高くなっている。小学5年生(75.9%)が最も高いのに対し、中学2年生(52.7%)は最も低くなっている。また、男女別ではいずれも男より女のほうが「ある」の割合が高く、17歳では15.0ポイント差となっている。

## 2. 20歳以上の調査結果の概要

### ■ ふだんの生活状況

- ・ 子どもとの会話時間について、男は「15分未満」(26.2%)が最も高く、次いで「30分～1時間未満」(24.6%)となっている。女は「2時間以上」(47.2%)が最も高く、次いで「1時間～1時間30分未満」(15.3%)となっている。
- ・ 子どもとの夕食の共食頻度は、男は「あまり一緒に食べない」(64.6%)が最も高く、一緒に食べない理由として「親(保護者)の帰りが遅いから」(77.8%)が最も高くなっている。一方、女は「いつも一緒に食べる」(62.0%)が最も高くなっている。
- ・ 部活や塾・習い事をしている子どもは全体の76.4%を占める。その内容は「習い事」が62.9%で最も高く、次いで「学習塾」が52.6%、「学校の部活」が43.4%となっている。
- ・ 自分や子ども、地域に対する意識をみると、「そう思う」と「やや思う」をあわせた肯定的意見は“子どもにもひとりの人間としての権利がある”(92.2%)が最も高く、次いで“子どもの安全は地域で守るものだ”(89.3%)、“自分の住んでいるまちが好きだ”(86.5%)となっている。傾向として、“学習塾での勉強は進学のために必要だ”に対する肯定的意見は40歳代を境に減少し、70歳以上(56.1%)で最も低くなっている。一方、“地域で子どもが通学や遊びなどで外出する道では交通事故の心配はない”の割合は、年代が上がるにつれて高くなっている。また、子どもの有無別でみると、“行政は子どもの声をもっと聞いて施策に反映すべきだ”、“学習塾での勉強は進学のために必要だ”、“子どもにもひとりの人間としての権利がある”は、肯定的意見が子どもがいない人に比べて子どもがいる人のほうが、それぞれ10.0ポイント以上高くなっている。

### ■ 地域での生活状況

- ・ 近所で会話をする人の有無は、男は「名前を知っていて、あいさつをする程度の人がいる」(36.5%)が最も高く、女は「名前を知っていて、いろいろ話をする人がある」(55.3%)が最も高くなっている。年齢別では、「名前を知っていて、いろいろ話をす

## II 調査結果の概要

る人がいる」の割合は、年齢が上がるにつれて高くなり、70歳以上（64.5%）が最も高くなっている。

- ・ 近所に話をしたりする子どもの有無は、男は「いない」（49.5%）、女は「名前を知っていて話をする子どもがいる」（46.5%）が最も高く、子どもの有無別で見ると、「名前を知っていて話をする子どもがいる」、「話はしないが顔も名前も知っている子どもがいる」、「名前は知らないが話をする子どもがいる」など近所の子どもを認識している割合は子どもがいる人のほうが高くなっている。
- ・ 祭りやイベント等への参加状況は、「話し合いなど準備から参加する（したことがある）」の割合は、年齢が上がるにつれて高くなっている。「参加したことがない」の割合は、20歳代（51.5%）が最も高くなっている。

### ■ 相談について

- ・ 子どもからの相談への対応状況は、男は「こちらから話しかけて子どもの声を聞く」（40.0%）が最も高く、女は「子どもから悩みや疑問を話しかけてきて、いろいろな相談に乗っている」（46.6%）が最も高くなっている。また、「こちらからいろいろ聞くが子どもはあまり話さない」と「こちらからも子どもからもあまり話しかけることはない」の割合は、男のほうが高くなっている。

### ■ 自己決定について

- ・ 「子ども自身が決めること」は“友だち”（83.7%）が最も高く、次いで“恋愛”（75.3%）、“将来”（53.8%）となっている。「親（保護者）に相談して決めること」は“風呂・食事・勉強などの生活時間”（56.5%）、“門限など家庭内のルール”（58.2%）、“学校に行くか、休むか”（67.2%）、“塾や習い事に行くかどうか”（68.8%）、“仕事・アルバイト”（51.2%）が過半数を占めている。年齢別では、「子ども自身が決めること」の割合は“服装・髪型・ファッション”と“将来”は20歳代が最も高く、年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。“友だち”は20～50歳代で約9割を占め、“恋愛”、“仕事・アルバイト”は20・30歳代の割合が高くなっている。